

**場所** 山形県西置賜郡小国町

**面積** 699.17ha

**活動目的** 広葉樹林は生物多様性保護林へゾーニングして保全を図っている。1%存する人工林は適正な管理を行いながら針広混交林へ誘導、公益的価値の高い山林を目指している。



**サイト概要** 磐梯朝日国立公園の朝日連峰に近く、小国町の約90%を占めるブナを主体とした広葉樹林で樹皮の白さから「白い森」と呼称する町内の天然林を構成する一端を担っている。海拔250mの金目川を基点とし、1,100mの孫守山、荒沢山を最高点とする荒沢地区と、850mの長松山を最高点とする黒沢地区の2団地に分かれる。地形は全体的に急峻で広葉樹林が大半を占める。山林の北側には金目川が流れており、本サイト内は荒沢と黒沢の二つの河川の流域が含まれる。

**土地利用の  
変遷**

2005年に前所有者より取得。森林管理のゾーニングはサイト内の約99%を生物多様性保護林のうちの水土保護林に区分、公益的機能が強く、水系の保護と生態系の保全を図っている。約1%の人工林も天然生誘導林に区分、全山天然林とすることを志向している。天然林の部分は急峻な地形もありほとんど人手が入らずにブナ林が残っている。

**サイト周辺の  
環境**

飯豊・朝日両連峰に挟まれたブナ主体の広葉樹林が広がり、マタギも活動する豊かな生態系を有している。

**アピール  
ポイント**

本サイトは大半をブナの原生林が占める自然度の高い森林であり、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等の大型哺乳類の生息が確認される。

また、GISによる林小班のデータ化を行い、ドローンによる空撮も併用し山林の状況を確認している。

## 生物多様性の価値

## 価値（2）原始的な自然生態系が存する場

## 【場の概況】

ブナを主体とした広葉樹林が大半を占め、隣接する森林と一体となりブナを主体とした広葉樹林「白い森」を構成する。急峻な地形もありほとんど人手の入っていない地域で、マタギの活動域となっているなど豊かな生態系が存在する。希少種としてはツキノワグマや国指定特別天然記念物であるニホンカモシカ、水系にはモリアオガエルの生息を確認している。

## 【主な植生】

申請区域内の天然林はチシマザサ-ブナ群落、ウラジロヨウラク-ミヤマナラ群落等、植生自然度の高い植物群集を形成する地区である。

## 【植生自然度】

植生自然度 9 チシマザサ-ブナ群落、ウラジロヨウラク-ミヤマナラ群落、クロベ-キタゴヨウ群落、タニウツギ群落、アカマツ群落

## 【確認された主な動植物など】

**植物**：リョウブ (*Clethra barbinervis*)、エゾユズリハ (*Daphniphyllum macropodum* subsp. *humile*)、イワウチワ (*Shortia uniflora*)、ユキツバキ (*Camellia rusticana*)、ナナカマド (*Sorbus commixta*)、オオバクロモジ (*Lindera umbellata* var. *membranacea*)、キタゴヨウ (*Pinus parviflora* var. *pentaphylla*)、オオカメノキ (*Viburnum furcatum*)、アオダモ (*Fraxinus lanuginosa*)、オニグルミ (*Juglans ailantifolia*)

**哺乳類・両生類**：ニホンジカ (*Cervus nippon*)、ニホンイノシシ (*Sus scrofa leucomystax*)、ツキノワグマ (*Ursus thibetanus*)、ニホンカモシカ (*Capricornis crispus*)、モリアオガエル (*Zhangixalus arboreus*)

**昆虫**：ルリタテハ (*Kaniska canace*、成体) **鳥類**：シジュウカラ (*Parus minor*)、ヒヨドリ (*Hypsipetes amaurotis*)、カケス (*Garrulus glandarius*)



写真の説明：ブナ林 新緑 空撮 黒沢地区



写真の説明：ブナ林 近景 黒沢地区

## 生物多様性の価値

## 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

## 【場の概況】

ブナを主体とした広葉樹林が大半を占め、隣接する森林と一体となりブナを主体とした広葉樹林「白い森」を構成する。急峻な地形もありほとんど人手の入っていない地域で、マタギの活動域となっているなど豊かな生態系が存在する。希少種としてはツキノワグマや国指定特別天然記念物であるニホンカモシカ、水系にはモリアオガエルの生息を確認している。

## 【主な植生】

申請区域内の天然林は、チシマザサ-ブナ群落を主体とするが、ブナ-ミズナラ群落など多層の植物群集を形成する地区である。

## 【確認された主な動植物など】

**植物：**リョウブ (*Clethra barbinervis*)、エゾユズリハ (*Daphniphyllum macropodum* subsp. *humile*)、イワウチワ (*Shortia uniflora*)、ユキツバキ (*Camellia rusticana*)、ナナカマド (*Sorbus commixta*)、キタコブシ (*Magnolia kobus* var. *borealis* Sargent)、コハウチワカエデ (*Acer sieboldianum*)、オオバク口モジ (*Lindera umbellata* var. *membranacea*)、キタゴヨウ (*Pinus parviflora* var. *pentaphylla*)、ガマズミ (*Viburnum dilatatum*)、オオカメノキ (*Viburnum furcatum*)、ウワミズザクラ (*Prunus grayana*)、アオハダ (*Ilex macropoda*)、アオダモ (*Fraxinus lanuginosa*)、チシマザサ (*Sasa kurilensis*)、ムラサキヤシオツツジ (*Rhododendron albrechtii*)、オニグルミ (*Juglans ailantifolia*)

**哺乳類・両生類：**ニホンジカ (*Cervus nippon*)、ニホンイノシシ (*Sus scrofa leucomystax*)、ツキノワグマ (*Ursus thibetanus*)、ニホンカモシカ (*Capricornis crispus*)、モリアオガエル (*Zhangixalus arboreus*)

**昆虫：**ルリタテハ (*Kaniska canace*、成体)

**鳥類：**シジュウカラ (*Parus minor*)、ヒヨドリ (*Hypsipetes amaurotis*)、カケス (*Garrulus glandarius*)



写真の説明：水系



写真の説明：モリアオガエルの卵

## サイトの活動計画・モニタリング計画

| 活動計画の内容   | モニタリング計画の内容  |
|---|--|
| <p>〈活動目的〉<br/>森林をゾーニングにより区分し、それぞれの特徴に応じた管理を行うことで、生物多様性の保全を図っている。</p> <p>〈活動内容〉</p> <p>①水土保護林における活動<br/>基本的に伐採を行わずにブナ林の保全を目指している。春の開葉期と秋の結実期の年2回の巡視を基本とし、成林状況を確認している。</p> <p>②天然生誘導林における活動<br/>サイト内に約1%存するスギ人工林においては、植栽木間の距離を適切に保ちながら地場の広葉樹の侵入を促し、針広混交林に誘導する施業をおこなっており、最終的にはサイト全域を天然生林とすることを志向している。水土保全林の巡視に合わせて林況を確認し、伐採が必要な状況になればサイト統治者と協議のうえ実行している。</p> <p>③その他天然生林における活動<br/>サイト内に存する作業道をの他天然生林に区分、新規の開設、延長は基本行わず、巡視、モニタリング時に補修が必要と判断すれば最低限の補修により維持に努める。</p> <p>サイト統治者（所有者）と活動責任者は長期受委託契約を締結、ゾーニングの内容と変更の要否を定期的を確認し長期の方針を共有するとともに、中期的には3年に一度サイト維持の方針、調査の内容等を計画、短期的には毎年その予算措置について協議を行いサイトの維持に努めている。</p> | <p><b>【モニタリング対象】</b><br/>ブナ林、昆虫類、鳥類、両生類、爬虫類、ほ乳類</p> <p><b>【モニタリング場所】</b><br/>荒沢地区：金目川水系荒沢沿い（ラインセンサス）<br/>黒沢地区：長松山尾根沿い突端部（ドローン空撮による定点観測）<br/>金目川水系黒沢沿い（ラインセンサス）</p> <p><b>【モニタリング手法】</b><br/>ドローンによる定点観測<br/>ラインセンサス<br/>地元有識者への聞き取り</p> <p><b>【モニタリングの実施時期及び頻度】</b><br/>2回/年（基本的に春の開葉時と秋の結実時）</p> <p><b>【モニタリング実施体制】</b><br/>三井物産フォレストの管理事務所による実施。</p> |